

# スーパーグローバル大学として 世界で活躍できる 『実践人』の育成へ

特集  
Special Section

—国際化に向けた大学改革の加速と強化—

岡山大学は今年9月、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援対象機関に採択された。地域の国際化などを先導する役割も期待される中、「PRIMEプログラム～世界で活躍できる『実践人』を育成する!～」として、学生が教養力・語学力・専門力の3基幹力を修得し、異分野・異社会・異文化の3側面における経験を持てる教育を全学体制で推進。教育、研究、組織のすべての面にわたって総合的な大学改革を図り、世界トップステージで活躍できる人材の育成に取り組む。スーパーグローバル大学構想をいかに着実に実現していくか。キーパーソンとなる各理事に意気込みや今後の展望について聞いた。



## 教育担当

許 南浩理事  
Executive Director ● Education

原点から未来へ！  
しっかりと学び、学ばせ、学びあろう



社会が最終的に必要としている人間像は昔も今も基本的に変わらないが、今は大学卒業時点で即戦力となる人材が求められている。大学はこうした社会のニーズに対応しなければならぬ。実践の現場で適切な判断をくだすことができる

「実践人」たる学生を育てるには、学生自身が地域や企業、国際社会など幅広い現場に接する機会を多く持つことが重要。スーパーグローバル大学に採択されたから特段に新しい取り組みをするというよりも、これまでの教育の原点に立ち戻ることだととらえている。

大学は学び合う人たちが集まる場であり、学びの主語は学生だけではなく、教員も含まれる。2016年度から全学部で60分授業とクォーター制を導入し、学生にとっては授業時間が1.3倍になるなど集中してしっかりと学べる環境が整う。一方で教員にとっては既存科目の授

業内容や教授方法を徹底して見直す必要がある。いかに学生の知的好奇心を喚起し、自ら学ぶ意欲を持たせるか。学生に教員がどう向き合うかが鍵となるだろう。

入試制度改革も大きな課題。岡山大学が先進的に取り組んできた国際バカロレア入試は、思考のプロセスや発想の重視、多面的で総合的な能力を測る入学者選抜の考え方を牽引するものと思われている。2017年度には既存のマッチングプログラムコースに留学生枠を加えたグローバルマッチングプログラムコースを新設し、将来的な新学部等への発展も視野に入りたい。総合的な英語能力を測るために、外部検定試験も活用したい。今の時代をどう認識し、大学教育を展開していくか。固定観念にとらわれず、柔軟な発想を取り入れてスピード感ある教育改革を進めたい。

## 社会貢献 国際担当

荒木 勝理事  
Executive Director ●  
Social Responsibility and International Affairs

地域に深く根差し  
世界の学生が集うキャンパスの創成



大学の国際化のためには留学生・外国人研究者の受け入れや派遣を増やすことが重要。そのためには組織体制や制度的保証の整備が必要になる。留学生受け入れのための教育機関として、国際センターを改組してグローバル・パートナーズを設置した。大学院に進学する留学生の予備教育を行う大学院予備教育特別コース（プレマスター）も開設した。また、国際交流事業の企画・運営部門としてグローバル・リーチを新設し、リクルーティングなど留学生獲得に向けた活動も強化していきたいと考えている。留学生受け入れの宿舎・奨学金の拡充にも取り組む。

グローバル・パートナーズ内に新設したりエゴン・オフィスと協力して学生の海外派遣と留学生の受け入れに積極的に取り組んでもらいたい。

グローバル実践知を修得する教育プログラムの展開をサポートするために、教育開発センターや地域総合研究センターとの連携は必須。学部段階から留学生を受け入れるグローバルマッチングプログラムコースの取り組みも、アドミッシヨ

# 財務・施設担当

Executive Director ● Finance and Facilities  
門岡 裕一 理事



## 世界が認める 教育研究環境の実現を目指す

留学生の受け入れを増やし、彼らに安心して大学生活を送ってもらうには宿舍を確保しなければならない。現在、留学生と日本人学生混住型の国際シェアハウスの建設を計画中で、来年度には着工し、2016年度からは入居を開始する予定だ。生活面だけでなく、教育環境という観点では「Lodge（エル・カフェ）」や附属図書館内のラーニング commons のような留学生と日本人学生が交流できる居心地のよい空間を増やしていきたい。

ただ、教育環境は岡山大学の中だけではないと考えている。岡山市中心部・西

川緑道公園一帯の魅力アップを念頭に学生や市民らが協働でまちづくりを進めるための学外拠点「西川アゴラ」を開設した。実践型社会連携教育を進めるうえでこうしたフィールドを広げていくことは大切であり、行政や地域、企業、他大学などの連携は欠かせない。

一方で、環境整備には財源も必要。岡山大学の社会への貢献度を目に見える形にし、国や民間企業からの協力も得ながら、これからの日本の大学の先導的モデルとなるような大学を目指したい。

# 研究担当

山本 進一 理事  
Executive Director ● Research



## 最先端異分野融合研究で輝く スーパーグローバル研究大学へ

岡山大学は昨年、文部科学省の研究大学強化促進事業の支援対象機関に採択された。最先端の研究をグローバルに展開し、岡山大学の研究レベルを世界のトップレベルに引き上げていくことを最大の目的として、グローバル最先端異分野融合研究機構を中心にイノベーションを引き起こす組織づくりを進めている。今後は「スーパーグローバル研究大学」として、人文学、社会科学、自然科学、医歯薬学にわたるさまざまな分野の研究と総合力を世界レベルに上げていくことが求められる。さらに、岡山大学のレピュテーションやビジビリティ向上によりいっそう努めなければならないだろう。

岡山大学は研究大学強化促進事業に

加え、文部科学省の橋渡し研究加速ネットワークプログラムの特典や、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業に採択されており、研究の推進体制が整ったと言える。岡山大学の強みを生かした異分野融合研究をさらに促進するためには医療工学分野の強化が欠かせない。来年度には自然科学研究科に生命医用工学専攻を、2018年度には全学体制で国際医療生体工学研究科を設置する予定で、新たな学部の上りも視野に入れている。世界レベルの水準にある研究力で岡山大学の名前を高め、国際化の進んでいる研究領域を牽引力としてほかの領域の国際化、底上げを図りたい。

# 企画・総務担当

阿部 宏史 理事  
Executive Director ● Planning and General Affairs



## ガバナンス体制の刷新と 継続的組織改革による持続的発展

教員の人事制度改革と教職員の国際化が大きなテーマ。人事制度改革の柱として導入する教員の年俸制により、教員・研究者の活動が活性化し、優れた民間研究者や外国人教員も招致しやすくなり、大学全体として研究・教育の質の向上につながるだろう。異分野融合先端研究コアを起点としてテニユアトラック制を未導入部局に拡大するとともに、若手女性研究者の確保・育成を目指したウーマン・テニユア・トラック制の推進によって女性教員比率を拡大していきたい。また、執行部における女性の割合を高め、大学運営により多様な視点を取り入れることも必要であろう。

教職員の国際化に向けては、外国人教職員や海外経験を有する日本人教職員比率を高め、海外経験などの国際通用性に関する評価項目のウエイトも上げていく。また、職員には外国語能力アップに向け

て海外研修などを実施していく。職員の実力開発は国際交流協定校などとの情報交換や交渉に必須。留学生が増えた際に、留学生と日常的に接するのは職員であり、語学力を高めなければ職務を全うできない状態になりかねない。

昨年、文部科学省が公表した国立大学改革プランでは学長のリーダーシップも重視される。学長以下、執行部、各部署の方向性がばらばらでは改革は進まないわけで、執行部と部局間の連携の向上に向けて第三者評価によるチェック体制の充実も重要。また、今の時代に対応した改革推進には専門的なスキルを持った人材も必要で、外部から積極的に雇用する予定だ。教職員の意識を変えるためには、今ある環境を変え、改革の必要性を感じさせることが重要だと考えている。国際化に向けた組織改革を10年間で段階的に、着実に進めていきたい。

# TOPICS

## 岡山大学「PRIMEプログラム」 ～世界で活躍できる『実践人』を育成する!～ キックオフシンポジウムを開催



谷口理事より岡山大学の事業構想の紹介



文部科学省顧問・木村氏



今後への意気込みを語る森田学長



パネルディスカッションで発言する岡山県知事・伊原木氏



一般社団法人岡山経済同友会代表幹事・松田氏

11月24日、ホテルグランヴィア岡山にて、キックオフシンポジウムを開催しました。文部科学省顧問・木村孟氏より「今、何故、スーパーグローバル大学か」と題して基調講演、続いて岡山県知事・伊原木隆太氏、一般財団法人岡山経済同友会代表幹事・松田久氏より、グローバル人材を岡山でどのように育成するか、岡山大学に期待することなどについて講演がありました。谷口秀夫理事（大学改革担当）より事業構想の紹介後、パネルディスカッションでは、森田潔学長、木村氏、伊原木氏、松田氏らが「グローバルな『実践人』を育てるために」をテーマとして意見交換を行いました。

会場には地域の方々、企業関係者、高等学校や大学関係者、本学教職員ら約200人が参加し、登壇者の発表に熱心に耳を傾けていました。